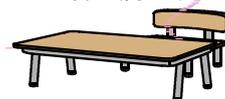


臨時号



令和6年度 全国学力・学習状況調査結果

＜中道北小の概要＞

本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に4月18日（木）オンラインで「質問紙調査」同24日（水）全国学力調査が実施され、本校でも6年生20人が参加しました。この調査は、本校児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活面の改善などに役立てることを目的としています。

調査内容は、大きく教科に関する問題（国語・算数）と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。教科に関する問題は、知識・技能的な内容と知識・技能を活用する力（思考力・判断力・表現力）、課題解決のための実践力、評価・改善する力を一体的に問っています。

7月下旬に文部科学省から結果が送られ、調査結果の分析を行ってきました。この度、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。さらに、6年生には個別懇談等を通じてそれぞれの具体的な課題について説明をすることにしています。

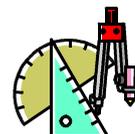
今後、学校では「各教科における改善点」をもとに全学年で取組を進めてまいります。また、各ご家庭でも後述の「今後に向けて」をお読みいただき、ご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さらに、次のように本校の調査結果の概要をまとめましたので、保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思っております。なお、全国学力・学習状況調査の結果につきましては、全国平均正答率の±5%の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であると考えています。

〔参考〕教科別平均正答率（全国・山梨）（％）



	国語	算数
全国平均	67.7	63.4
県平均	68	62



調査結果の概要

◇本校の教科に関する平均正答率は、「国語」は全国平均をやや下回る、「算数」に関しては全国平均とほぼ同等という結果となりました。詳細については、「記述式の問題」の正答率の低い問いや「無回答ではないが回答内容が不明なもの」が見られ、文章や資料、データなどから必要な内容を読み取り、それらを簡潔な文章にまとめ、表現する力の面で課題があることがわかりました。

質問紙調査については、基本的な生活習慣がしっかりと定着し、自己肯定感も高く、「自分には良いところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」と思っていることがわかりました。また、「人が困っているときは、進んで助けますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに関しては100%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答え道徳的な心情の高まりを感じました。

その反面、「家庭学習への取組(学習時間)」の長さ「テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」の長さなど学習習慣については課題があります。

教科ごとの状況と課題

－（この項目は常体表現で記述）－

国語

領域別

- 「我が国の言語文化に関する事項」が全国及び県より高い値である。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」が全国及び県より高い値である。
- △「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」に、課題が見られる。全国・県より10%以上低い値である。

問題別

- 「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるか」を問われた設問に関して、県・全国よりも高く、数値的にも高い値である。
- △「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる」に関して、県・全国平均よりも15%以上低く数値的にも低い値である。
- △「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」が県・全国よりも低く顕著な課題である。
- △全体的に読み取りの力に課題がある。

算数

領域別

- どの領域においても県・全国とほぼ同等の値である。

問題別

[数と計算]

- 「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる」「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる」等軒並み正答率が県・全国より高い値である。

[図形]

- 図形に関する問題の正答率は県・全国とほぼ同等のものが多かった。しかしその中でも「直径の長さ・円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる」設問は10%以上低かった。
- △県・全国とも正答率が低かった「球の直径の長さ・立方体の一辺の長さの関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」設問に関しては本校も低く無回答率も高かった。

[変化と関係]

- 「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる」「速さの意味について理解しているかどうかをみる」設問に関しては県・全国とほぼ同等の値である。
- △県・全国とも正答率が低かった「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」の記述式の設問では、県・全国平均よりも20%近く低く数値的にも低い値である。

[データの活用]

- 「簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる」設問は正答率が県・全国より高い値である。
- △「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる」設問は県・全国平均よりも低く無回答率も高かった。

国語

○ 文の中における主語と述語との関係を捉える指導の充実

- ・主語と述語との関係について、低学年から繰り返し指導する。また、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」や「B書くこと」の指導事項などと関連を図り、日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりする場面を多く設ける。

○ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする指導の充実

- ・登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考えなどを総合して判断できるようにし、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目させ、物語の全体像を具体的に想像する機会を増やす。
 - ◇登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える
 - ◇人物像を具体的に想像する
 - ◇人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする
 - ◇日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付く

○ 話し言葉と書き言葉との違いに気付く

- ・話し言葉には、聞き手や場面の影響を強く受けながら表現や理解が進められるという特質があり、こうした特質に配慮しながら、書き言葉との使い分けを身に付けるための基礎を養う。

○ 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う

- ・図などによる語句と語句との関係の表し方とは、複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりするなど、図示することによって情報を整理することを指している。図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることに気付かせる。

算数

○ 図形を構成する要素を見だし、それらを活用して体積を求めることができるようにする指導の充実を図る。

- ・身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断する場面を設ける。

○ 二つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考察することができるようにする指導の充実を図る。

- ・生活の中でも場面や目的に応じて、単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるような場面を設ける。

○ 二つの数量の関係に着目し、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解することができるようにする指導の充実を図る。

- ・道のりと時間が比例関係にあることに着目して、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにする。

○ グラフを読み取り、見いだしたことを表現できるようにする指導の充実を図る。

- ・日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分を基に、必要な情報を読み取ったかを表現できるようにする。

○ 問題を解決する過程やその結果を式に表すことができるようにする指導の充実を図る。

- ・日常生活の問題を解決するために、必要な数値を用いて処理したり、その結果を式に表したりすることができるようにする。

質問紙調査の主な特徴

家での生活について

- 「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の問いに肯定的な回答の割合が県・全国より高い。

自分や友だち、学級について

- 「自分には良いところがあると思うか」の問いの肯定的な回答の割合が高い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」と思っている児童の割合が高い。
- 「人が困っているときは進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定回答で10割であった。
- △「学校に行くのが楽しい」「友だち関係に満足していますか」については「当てはまらない・どちらかと言えば当てはまらない」と答えた児童の割合が、全国及び県より多い。

学習について

- 「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次時の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができていると思いますか。」の回答は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答がとても高い。
- 「国語・算数・英語の学習の大切さ」を認識している児童の割合が高い。
- 「算数の授業での学習が将来社会の役に立つ」と考えている児童の割合が100%である。
- 学習においてPC・タブレットなどのICT機器の活用状況の数値が高い
- △「学校の授業以外の普段の勉強時間」「土日の勉強時間」の回答が全国及び県より短い。
- △新聞を読んでいない児童の割合が多く、これは全国・県も同傾向である。

今後に向けて

本校のほとんどの児童は、毎日の授業に一生懸命に取り組んでいます。学校では、教職員一丸となって子供たちの学力向上に向けて、これまで以上にわかる楽しい学習に努めて参ります。

以下に特にご協力いただきたい点を記させていただきますので、家庭と地域と学校三位一体となって子どもたちの健やかな育成のため力を合わせていきたいと考えています。ぜひ、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

☆何事にも意欲を持って取り組もうとする様子が見られます。また、授業においても積極的に参加し、少しでも分かるようになろうと思っている様子もうかがえます。しかしながら、学習の大切さは理解できているもののなかなか実践に移すまではいかず、確実に身につけてほしい基礎基本の定着がもう一步である現状があります。これは学習時間が少ないことも理由の一つであると考えられます。「家庭学習の手引き」等を活用し、自主学習に反復演習も取り入れる等ご協力をお願いいたします。

☆生活習慣はしっかりとどのご家庭でも確立していただいています。学力と生活習慣は密接に関係しておりますので、今後も早寝・早起き・朝ご飯の習慣を親子で実践していただけますようお願いいたします。

☆文章を読み取る力は、すべての教科において欠かすことのできない力です。学校でも授業等を通して培っていきませんが、ご家庭でも家族全員で読書をする時間をつくったり、新聞を読む取組を通して興味が持てるような記事を元に話をする機会もつくったりと、活字に触れる機会を増やしていただければと思います。リビングに新聞・本・地図帳を置き、すぐに手に取れる環境にするのも効果的です。

☆ゲームをする時間が長いことも家庭での学習時間の短さに影響していると考えます。そこで、ゲーム機やPC、スマホ等の使い方について、もう一度家族で話し合ってください。使用時間などのルールを決めたり、作ったルールを見直したり守らせたりする取組を根気強く進めていただけたらありがたいです。(笛南中学校区3校の取組で中学校のテスト期間に合わせて、ノーメディアデーを設けています)。